



## 東京丸の内ロータリークラブ

### 第44回 例会議事録

ゲスト ウエルカム デー

2020年1月22日(水)

会場 センチュリーコート丸の内  
アカンサスノース・ルーム

### ① プログラム

- ◆ 司会進行 古山真紀子会員
- ◆ 開会点鐘 尾崎由比子会長
- ◆ ロータリーソング 玉木仁会員  
「奉仕の理想」
- ◆ ゲスト・ビジター紹介 古山真紀子会員

#### ○ゲストの皆様 (あいうえお順・敬称略)

- ・会田幸恵様 株式会社 KEE'S 副社長
- ・寿原裕美子様 宝田・寿原会計事務所  
代表税理士
- ・原田京子様 元外資系金融機関  
現在 日本文化研究
- ・平野和人様 三菱マテリアル株式会社  
セメント事業カンパニー 執行役員  
カンパニーバイスプレジデント
- ・山本貴代様 (卓話者) 女の欲望ラボ  
みつばち文庫 代表

#### ○ビジターの皆様

- ・若林英博様 地区ガバナー補佐・ガバナーノミニー、東京麹町RC
- ・吉田弘和様 地区中央分区幹事 東京麹町RC
- ・土居岩生様 地区 RLA 委員会副委員長  
東京お茶の水RC

#### ◆ ニコニコ報告 鶩澤充代会員

- ・東京お茶の水RC 地区 RLA 委員会副委員長  
土居岩生様 「新年のごあいさつ申し上げます。  
年度後半頑張りましょう」
- ・尾崎由比子会長 「本日は今年度初のゲストウ  
エルカムデーです。皆様お越しくださり、どう  
もありがとうございました」
- ・古山真紀子会計 「今年度初のゲストウエルカ  
ムデー、楽しみです」

### ② 出席報告 古山会員

会員数	8名	ゲスト	5名
出席数	5名	ビジター	3名
欠席数	3名	出席率	63%

### ③ 会長報告 尾崎会長

#### 1 クラブ概要について

2020年1月から会長を務めております尾崎由比子と申します。昨日、今年の7月から国際ロータリーの会長となるホルガー・クナーク氏が次年度のテーマを発表されました。それは「ロータリーは機会の扉を開く」です。今日ゲストウエルカムデーを開催する私達にとって、まさにティーアップなテ

一馬かと思います。私達は 2018 年 2 月 26 日に国際ロータリーから認証を受け、ロータリークラブとして立ち上りました。昨年度の奉仕活動は、障害者の子供たちを支援する「サイレントフット」の活動、西日本豪雨災害の時の災害救助犬への援助、またチャリティーセミナーを 3 回開催し、3 つの団体に寄付をしました。また、新モンゴル日馬富士学校の設立記念・元横綱日馬富士関の卓話お礼に今井会員の書を贈呈いたしました。また、フードロスを減らす活動のために、例会毎に 1 食分の金額を WWF に寄付しております。詳しくは、お手元の「東京丸の内ロータリークラブの概要」をご覧くださいませ。

## 2 オーストラリア森林火災支援について

災害救助犬に関する卓話の中で、東日本大震災の時に、オーストラリアからの救助隊が真っ先に災害救助犬を連れて活躍してくれた、という話がありました。今、オーストラリアの森林火災が大問題となっており、それについて何か出来ることはないかと理事の間で議論していたところ、古山会員の尽力により、現地のロータリークラブと連携して奉仕活動を行う計画が急速に持ち上りました。寄付額は 1,500 豪ドルを予定しております。詳細は追ってお知らせします。2 月から雨季だそうですので、なるべく早くお返事をしたいと思います。

► 古山会員より：ニューサウスウェールズ州シドニー北部にある Rotary Club of Northbridge というクラブを、オーストラリア人の知り合いから照会してもらいました。そこにたまたま日本人の会員がいらっしゃいまして、間を取り持っていただきました。Northbridge RC では、森林火災で家を失った人達への支援を計画しているので、そちらに協力して頂けないか、ということでした。もし、皆様からご異議がなければ、そのように進めさせて頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

## 3 ガバナー補佐 若林英博様より一言



皆様、こんにちは。私は東京麹町ロータリークラブからまいりました。東京北部と沖縄が私達の地区で、会員は 3 千人くらい。東京南部のもう一つの地区は会員 5 千人くらいで、グアムとサイパン、ミクロネシアも含まれます。私達の地区では沖縄から 7 ~ 8 年に 1 回ガバナーを出しますが、ちょうど今年がそれにあたり、2 月に沖縄で地区大会を行います。

ロータリーは 1905 年にシカゴで誕生しました。そして日本のロータリーはちょうど今年が 100 年目にあたります。最初のクラブである東京ロータリークラブを中心にいろいろな催しが計画されています。日本のロータリーは 34 地区、会員は約 9 万人います。世界には約 120 万人のロータリアンがいます。

もともと、ロータリーは親睦を目的に作られました。その輪が広がると共に、奉仕活動を行おうということになり、シカゴに公衆トイレを作ったの

がその始まりです。基本的には各クラブはその地域で奉仕活動（小学校に対してや、街の清掃など）を行いますが、それにとどまらず、世界規模でも奉仕活動を行います。例えば、私達の麹町ロータリークラブでは、バリ島に多い遺伝病（年間 400 人くらい）である口唇口蓋裂（三ツ口）の子供に対する支援(500 万円程度、国際ロータリーと地区からの支援も合わせて)を予定しています。このように、ロータリーは世界中で奉仕活動をしますが、その主たるものは、青少年交換、留学です。

丸の内 RC もこれから奉仕活動に力を入れて、会員もどんどん増やしていって欲しいと思います。ここ千代田区には 6 つのクラブがあり、その中には最も古い東京ロータリーと、この出来たばかりの丸の内があります。これから丸の内に期待しておりますので、どうか頑張ってください。

東京麹町ロータリークラブは、ロータリーがポリオ撲滅活動を始めた発祥のクラブと言われています。おかげさまで、ポリオの数は世界でも数十人に減りました。ただし、ポリオは毎年ワクチンを投与しなくてはならず、インド、アフガニスタン、パキスタンなど、戦争や宗教的な問題から、なかなか投与できないという事情もあります。その莫大な資金集めのためにチャリティー寄席（国立演芸場）を企画しました。チケット持参しましたので、よろしくお願ひします。

## ④ 幹事報告 今井副幹事

### 1 例会と理事会の議事録について

このたび例会と理事会の議事録の公開方法を変更することになりました。HP の会員専用ページにアップすることに致します。パスワードをメールにて送りましたので、ご確認のうえ、お取り扱いにはご注意くださるようお願いします。

### 2 例会の出欠報告について

これまで Facebook で行っておりましたが、セキュリティの問題等があり、変更しようと思います。詳細はメールにてお知らせします。また、ご意見ございましたら、お知らせくださいませ。

### 3 バレンタインのイベント、初詣について

バレンタインのチョコとメモの交換のためのくじを皆様引いてくださるよう、お願いします。また、例会後に神田明神に初詣に参りますので、お時間のある方はぜひ一緒にしましょう。

## ⑤ 卓話 山本 貴代 様

「果てしなく続く女子欲解剖」  
～親孝行のつもりが、出版社を作ってしまいました～



こんにちは。女の欲望ラボとみつばち文庫代表の山本貴代と申します。

私は最初博報堂にコピーライターとして入社し、そこで尾崎会長とご一緒でした。その後生活者研究をずっとしております。女の欲望ラボのコピーは、「女の数だけ欲がある」です。

「女の欲望ラボ」とは、様々な欲望を研究している機関です。2004年春に設立しました。考えるOLのラボ「エルラボ」や、その70代までのお母さん集団「マダムラボ」、比較対象としての男性集団「ダンディラボ」、そしてアジア女性のライフスタイルを研究するための「亞女子ラボ」（ミャンマー、スリランカなど）など、それぞれのグループの皆さんとメールによる文通等を通して本音を探っていく研究がその活動の中心です。

欲望という悪いイメージをお持ちの方が多いかと思いますが、私は「欲望はプラスに生きるエネルギー」と思っています。「～したい」という気持ちがなくなると、つまらない世の中になってしまふのではないかと思います。女性は全方位に欲を持っていて、しかもその欲は広くて深い「大海型」だと思います。比較したい、健康でいたい、育てたい、グルメ欲・・・3.11の直後でも一番強い欲は食欲でした。このような女性の欲望が日本経済を動かしていると言えます。欲望にはビジネスヒントが数多く潜んでいるのです。ある夫婦の例をとってみても、夫に比べて妻の欲望がいかに多いかがわかります。

女性の欲望の方向については、口実をつけては結局手に入れるという傾向があります。例えば、へこんだ自分をマイナスからゼロに引き上げるための「癒しの消費」。ゼロからプラスに引き上げるための「パワーアップ消費」などです。年齢でいうと、例えば40代以降は美容面、健康面で右下がりになってしまふ自分を許せない、何とか減っていく分を取り戻したいという欲があり、ここにもビジネスチャンスが隠れています。これは「女子力」というよりは、「女子抗力」だと私は思います。

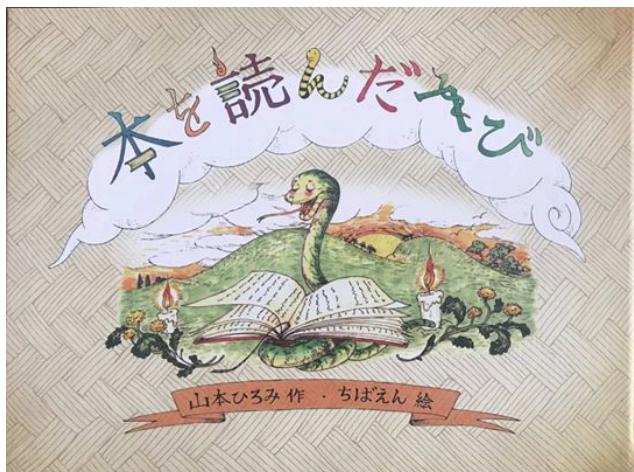
こうしたマダム達に「今求めている擬態語は？」と問いかけると、「キラキラ、ワクワク、ヒラヒラ、・・・」という100近くの答えが返ってきました。それに則ったモノを求めたり、買って周囲に配ったり、という消費行動が見られます。

女性は年代によって欲が変わってきます。例え

ば20代ならば「見られたい」、30代になると「磨きたい」・・・60代は「見極めたい」、80代は「看取りたい」など。一昔前はそれぞれの欲がそれぞれの世代で終わっていましたが、最近では、年を取るにつれて新しい欲がONしていく（積み重なっていく）という特徴があります。

また、「勘違い年齢」というものがあり、大体女性は自分の実年齢から6歳引いたくらいの意識でいる、ということです。ですから、男性の方は、年齢マイナス6歳と思って女性に接すると、喜ばれると思います。以上のように、日本では女性の「総女子化」が起こっていると言えます。

かつては、消費の主役は若者でした。年齢で並べると正三角形のような形でした。今では、それが逆三角形になり、人数のみならずパワーの面でも年齢が上に行くほど増大しています。その中心にいるのが団塊女性＝バブル女子です。この世代がとても元気で、上にも下にも元気を振りまいております。人生100歳時代ですから、より多くの欲をもっていた方が、人生が末広がりになって楽しいと思います。



ここで、私の「〇〇したい」についてのお話に移ります。2019年7月に児童文学の小さな出版社を設立しました。最初の思いは「母を笑顔にしたい！」でした。私の母は静岡県の三島の隣町、ロータリークラブの米山記念館のある町の出身です。母は三島市のロータリークラブに所属しておりましたが、

20年間ほど闘病生活の上に去年天国にまいりました。「そんな母に親孝行したい！」と、母が長年同人誌に書き続けていた童話を、絵本仕立ての素敵な本にして、出版することを思いつきました。母が選んだお話は「本を読んだへび」で、母の「子供たちに読書の喜びを伝えたい」という思いから書かれた作品です。

「このお話を多くの人に読んで欲しい！」という気持でいたところ、「大きな夢を実現するには、クラウドファンディングがいいのでは？」というアドバイスを受けました。クラウドファンディングは自分の夢を提示して、それに賛同して下さる方々から支援を受けるというものです。結果的に児童出版社を設立し、1,000冊を作ることが出来ました。本を制作し出版する過程で、下町の印刷屋さんなど、さまざまな人々とのつながりが出来ました。そして支援して下さった方々とその母校、児童施設や図書館、海外の知人などに本を送る活動をコツコツしております。また、ラジオ番組への出演や読み聞かせ、原画展なども致しました。電子書籍化も決まっております。

次に「ファンタジーの世界をよりリアルに体験して頂きたい！」と、「へび守り」の制作を思いつきました。中には実際にへびの抜け殻が入っています。へびの抜け殻入手するために、中野のへびショップのオーナーや肉食爬虫類研究所の所長さんとも知り合いになりました。また、絵本の原画を描いた御殿場在住のイラストレーターと私の息子の担任の先生が、実は高校時代の同級生だった、というミラクルなご縁もありました。

何歳からでも何でも出来る、「○○したい！」がいろいろなつながりを見せていく。本を作っただけでなく、これからどんどん広がっていくのではないか、と思っております。「親孝行したい！」という気持ちから始まって、このような広がりがもたらされたというお話でした。ロータリーの会員だった母の縁で、このような素敵な場でお話を頂きました、本当に有難うございました。



▶ 尾崎会長より： 山本様に卓話にいらしていただきことになったきっかけは、RLI の研修に参加した時に、たまたま三島ロータリークラブから参加なさった方とお知り合いになったことからでした。ロータリーは本当に素晴らしい機会を頂ける場だと思いました。

\* 閉会点鐘 尾崎会長

## 今後の予定

2月5日 第45回 例会	卓話（研修） 研修サブリーダー 鈴木隆雄様 (東京江東RC)
2月11～13日	地区大会（沖縄）
2月19日 第46回 例会	卓話 赤十字国際委員会 駐日事務所広報官 真壁仁美様
3月4日 第47回 例会	卓話 神奈川県 政策研究担当局長 竹本治様
3月18日 第48回 例会	卓話 早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授 小林ミナ様
4月8日 第49回 例会	地区公共イメージ向上委員会 委員長 中島弘人様 (東京ワセダRC)

以上